

磐城時報

第七廿夕
日刊
編輯部 石城郡平町福屋町十四
印刷部 石城郡平町福屋町十四
電話 磐城電話局掛番四十四
發行所 石城郡平町福屋町十四
電話 磐城電話局掛番四十四
郵政掛號 第一四三號
定額 一月金貳圓一ヶ月金壹圓
廣告料 一行十文字金五錢
△日刊(夜、祭日)休刊

大瀧發電所問題 解決促進の陳情

鈴木縣議等出縣

大瀧發電所問題は過般半井内務部長、中川土木課長等來平し平町代表並に反對同盟會代表と會見し詳細にその意のある處を聴取して歸郷したが、伊東知事の調停案に對しては平町に於ても大体承認するらしく近く河等かの案で圓滿解決する。あらうと見られてゐる。尙ほ同問題に關し二十六日縣會議員鈴木辰三郎氏外數氏は出縣し伊東知事に對し解決促進を陳情した。

比佐代議士 當選祝賀會

民政黨比佐昌平氏の當選祝賀會は三月一日午後一時平町小劇場に催はす。

産馬畜産總會

石城郡産馬畜産組合總代會は二十八日午前十時から平町元石城郡役所に開き左の諸件を附議すること
一、昭和三年度豫算
二、同年度種馬資金收支豫算の件
三、縣有種馬借受の件
四、種馬購入の件
五、種馬資金運用の件
六、昭和二年追加更正豫算の件
七、同種馬資金收支追加豫算の件

木炭同業の事務所 富岡町に移轉計劃

けふ總會で論戰 結局實現は不可能か

第三郡木炭同業組合總會は二十七日午前十時から平町元石城郡役所に開き左の諸件を協議した
一、代議員異動報告
二、福島縣木炭同業組合聯合會代議員任期満了報告
三、定款一部變更不認可報告
四、木炭倉庫建設の件
五、昭和三年度豫算
六、同年度組合費賦課徴收方法
七、同年度職員一時給與金歳入出豫算
八、縣木炭同業組合聯合會代表員選定
九、定款一部變更
十、御大典紀念事業計劃
十一、向濱三郡木炭同業組合の歳入出平町地方では先年各地に於ける

小鳥熱

小鳥の物與と共に早くも之れが飼養をはじめ姉妹或は金糸雀等の在來品種よりブリュー、セキセイ等の高級品に至る迄も趣味を兼ねたる有利な副業として舊城址方面の勤め人などによつて盛んにその飼養が行はれる。後當業者との間に於ける取引等に就ても上手な懸け引きを試みる程度に達したのであつたが、過般來一般市況の反動から其の價格も暴落し趣味と實益とを兼ねた副業は一轉して餌代を兼ねて來た爲めさしも旺盛であつた。小鳥熱も昨今些か下向きの傾向にあつてブリュー、セキセイ搜索等であるが、平町出町並に等の高級品に至つては依然高價を支へつゝあるも黄セキセイの如きに至つては番ひ一圓の特價賣出さへ行はれてゐる程である。

毎夜の如く 平町に放火

田町と白銀町火防組で 夜警を開始

二十五日午後十一時頃平町一丁劇場に開演したが、郡内の有志が平町銃砲店裏にボロ布に石五十錢銀貨を持つて集つたもの油を注ぎ放火を企てたものあり實に七百余名、有志の祝辭、木家の番犬に吠わられて目的を達しなかつたが、二十六日午後四時過ぎ散會した。午後五時か十時半又々同様手段で平町白銀町は四倉町有志主催で同氏の祝會を同町海氣館に開いたが來會者二百余名之亦盛會であつた。

豫防注射

狂犬病の豫防注射は平町に於ける狂犬病豫防注射は二十七日平警察署構内に行はれるが當日注射を受けるワン君の数は約八十頭で雌雄老幼の随分王人公に忠な愛犬があるが其名前も熊公、八公などの勇み肌拂ふ約束であつたがその後更にの外一丁目飯田近治君のチャク、白銀町額賀廣次君の小蝶、檜垣小路笹生仁一君の茶目、チカンのと沼田は二十五日平署に告訴別會計(水道部豫算)九萬八千六百十圓で總豫算額は五十三萬二千八百十三圓である。特別會計を除いた四十四萬一千九百八十三圓の明年度豫算は本年度頭初豫算二十八萬二千六百九十八圓六十六錢より十七萬九千二百八十四圓三十四錢の増額を來してゐる。この十七萬餘圓の増額を來した理由は主なるものは、小學校増設、火葬場の新設等がその最大のものであつて、その他には見るべき程の新規事業は含まれてゐない、町村豫算が年々物價の騰貴、通貨の價值低下による自然的膨脹或は

川部の山火事

石城郡川部村大字小川字大久保堤内國有林から二十四日午後三時頃發火し折柄の烈風に火はたちまち延焼し、國有林約十五町歩、代議士木村清治氏の當選祝賀會私所有林約五町歩を焼き五時鎮火は二十六日午後一時から平町平

木村代議士 當選祝賀會

木村代議士の當選祝賀會は二十七日午後一時から平町平渡邊に於て開き、豫算編成に當つては歳入方面を主とし、歳出を従ふことが根本原則であらねばならない、従つて歳入方策確立の後初めて施設事業の計畫を樹て歳出豫算の編成に取りかゝるべきが順序であることであらう。さて平町明年度豫算は經常部二十一萬一千三百七十四圓、臨時部二十三萬六千九百九圓、特

明年豫算に對する私見

平町明年度豫算審議の委員會は廿六、七の兩日開かれ廿八日開會の本會議に廻附修正決定されることとなつた、本會議に於て如何に修正加除、削減の別問題として當局が提出した豫算案の内容の概括的觀察をして見よう、勿論筆者は自治体豫算の編成方法もまた見方さへも確に解らない従つて本文は批評ではない、單に氣付いた点に就いて私見を述べらるまでであることを冒頭に於て斷つて置く。豫算編成に當つては歳入方面を主とし、歳出を従ふことが根本原則であらねばならない、従つて歳入方策確立の後初めて施設事業の計畫を樹て歳出豫算の編成に取りかゝるべきが順序であることであらう。さて平町明年度豫算は經常部二十一萬一千三百七十四圓、臨時部二十三萬六千九百九圓、特

ス、小僧、田町漆園善助君の、二丁目淺川金太郎君の若弟、南町岡田寫真館のテリなど内外の名前から藝者の名前の如き變つたのが澤山ある。

▲木村重五郎氏逝く
湯本町大字三國木村重五郎氏は病氣中の際二十六日午後六時死亡した、享年八十歳、葬儀は三月一日自宅出棺同町德壽寺で執行の筈である、同氏は子弟の教養に心がけ、三男兼助氏は工學士、四男真九郎氏は農學士、五男六郎氏は理學士である。

材木代を拂はぬ男
石城郡内郡村宮之澤山崎政秀は昨年、同村字綴沼田濱之助方が建築材木五百七十八圓四十五圓を支拂はぬとせむ數日前家財遺失を以て逃走行術を講じた。小路笹生仁一君の茶目、チカンのと沼田は二十五日平署に告訴別會計(水道部豫算)九萬八千六百十圓で總豫算額は五十三萬二千八百十三圓である。特別會計を除いた四十四萬一千九百八十三圓の明年度豫算は本年度頭初豫算二十八萬二千六百九十八圓六十六錢より十七萬九千二百八十四圓三十四錢の増額を來してゐる。この十七萬餘圓の増額を來した理由は主なるものは、小學校増設、火葬場の新設等がその最大のものであつて、その他には見るべき程の新規事業は含まれてゐない、町村豫算が年々物價の騰貴、通貨の價值低下による自然的膨脹或は

▲縣下卓球大會 縣下卓球大會は二十六日午前九時から平町元石城郡役所で舉行した...

▲Aコート 平第一校 曙クラブ 西 平管林署 第七十七 平第一校 第七十七 西 平管林署

政戦を顧みて 記事輯録につき休載

▲Dコート 平銀行 平管林署 平管林署 平管林署 平管林署

赤心堂に 野秋醫學士 産婦人科主任として

映畫界 支那街の女王と呼ばれる女性を首領とする悪漢の群が...

高久病院 内科・外科・耳鼻咽喉科・花柳病科

大和町醫院 耳鼻咽喉科 電話一七〇番

陽 専門 皮膚病 電話七〇番

高久病院 院長高久忠 電話一三五

牛豚肉特価 廉賣王の深谷牛肉店 電話五二四番

男女首飾上 化粧品器具 芳園香園理髮器具店

理化學研究所製 吸入用酸素 特約店 三關内藥舖

靴とかばん 福山靴店 徒弟入用 優良品の証明

貸家 白銀町 仲間町 柳町

産婦人科専門 加藤丈夫營業所 電話三三番

共濟病院 看護婦見習募集 電話六四一番